

# 美しい山形・最上川フォーラム

## 第 38 回 清流・環境対策部会及び最上川文化・地域経済活性化部会

日 時 平成 28 年 12 月 7 日（水）13：00～

場 所 緑町会館 4F 401 会議室

### 意見概要

#### 次第 3 報告・協議

平成 28 年度部会事業実施状況報告

#### 清流・環境対策部会

- 1 第 15 回身近な川や水辺の健康診断 了
- 2 第 14 回美しいやまがたクリーンアップ・キャンペーン 了
- 3 ゴミ発生源対策「捨てない・すてさせない in 最上川」 了

##### 【質問】

山形県海岸漂着物対策推進協議会が開催され、フォーラムでも参加しているが、どんな問題があるのか、どのような議論がされ波及しているのか。地域の地区民・自治会などを巻き込んだ一つの事業として展開されているのかなど教えていただきたい。

⇒フォーラムはこの協議会の構成員に入っている。イニシアティブをとっているわけではない。庄内の方々、県、漁協などいろいろな団体が入ってこの協議会をつくっている。その中でフォーラムとしては、海外漂着ゴミの多くを占める陸域部からのゴミを減らすために、スポーツ GOMI 拾いやゴミを出さないなどの活動の面から協議会に参加してきている。構成員の一部としてフォーラムとしての役割を十分に果たしていくという考えである。

- 4 第 12 回もがみがわ水環境発表会 了
- 5 報告書「笑顔を写す山形の川」 了
- 6 広報啓発 了

#### 最上川文化・地域経済活性化部会

- 1 最上川夢の桜街道づくり 了
- 2 東日本大震災復興支援プロジェクト「東北・夢の桜街道～桜の札所・八十八ヵ所巡り」了
- 3 「夢の桜街道～さくら物語～」の発行 了
- 4 夢の桜街道キャンペーン 了

##### 【意見】

写真コンテストの入賞作品の絵はがきを見直してみてもどうか。理由としては、山形県内のあらゆる団体が写真に集中している。現地を歩きそこにある課題に目を向けるのではなく、写真を撮る・景観を眺めるだけで終わっている。自分自身、いろいろな場所でこれまでの写真の絵はがきを紹介している。文翔館や紅の蔵、まなび館などの施設にも各種団体で出している絵はがきが置いてあるが、未消化で積まれているのを見る。作った絵はがきがどのような利用をされているか気になる。また、最上川にはかつて 50 か所近く渡船場があった。文化・歴史・史跡など最上川の残存しているものを次世代に残していくということで、そこに標柱などを立てていく運動はどうだろうか。検討いただきたい。

⇒最上川がどのようなものか分かりにくいいため、まず写真を通して知ってもらいたいということから、写真コンテストを開催してきた。コンテストを開催して、従来から行政で持っていた以上に良い作品がでてきたので、それを多くの人に知ってもらいたいため、葉書を作成し会員の方など

に配布している。フォーラムは利活用できる材料を提供することが重要な役割だと思っている。渡船場に標柱を立てることについては、執行部から働きかけるのではなく、部会・地域部会などの活動の上で必要であれば、事業提案してもらえれば会議にかける。部会の事業として盛り上げ取り上げるとなってきたら、それを進めるための助成を考えて行くのが執行部の仕事になってくるのではないかと考えている。

5 写真コンテスト受賞作品写真展 了

6 写真コンテスト 了

現在の応募状況は2名3点。1月20日が締め切りなのでみなさんも広報のご協力をお願いしたい。また、皆さんからも各地区の美しい写真をご応募していただきたい。

7 ホームページの更新 了

8 地域おこしの紙芝居作成 了

### 地域部会

- ◇置賜地域部会 了
- ◇村山地域部会 了
- ◇最上地域部会 了
- ◇庄内地域部会 了

### 総会・運営委員会・部会

- ・通常総会の開催 了
- ・運営委員会の開催 了
- ・合同部会の開催 了

### その他 委託事業・助成事業・連携事業など

- 1 平成28年度川～海をつなぐ「美しい元気な山形づくり」業務
- 2 やまがた社会貢献基金（団体支援助成事業）
- 3 やまがた社会貢献基金（協働助成事業（テーマ希望型））
- 4 水環境保全助成事業
- 5 「東北夢の桜街道」寄付金
- 6 「もがみ川 特別金利定期預金」寄付金
- 7 eco証券Web約款選択による寄付金
- 8 山形県海岸漂着物対策推進協議会への参加
- 9 「第36回全国豊かな海づくり大会」との連携

#### **【意見】**

9月10、11日の大会は、関係者の多大な尽力もあり、酒田・鶴岡の沿道が大盛況で大成功だった。昨年度からの取り組みであったが、5～7月まで庄内の12海岸のクリーンアップ作戦を行った。1会場70～150名程の方が参加して大会の成功を目指して、漂着ゴミの回収の大変な作業を展開したが、新聞では全く報道されなかった。海づくり大会の背景には海岸添いの地区民の方の多大な努力があったということをお場で明らかにしたい。またこの山形での大会は自分が生きている間の開催はないと思われるので、この大会を開催した日にちを大事にして、最上川フォーラムが頂点に立って漂着ゴミをなくし裸足で歩ける海岸を目指し、子供たちが元気に海遊び・川遊びができる環境を残していく取り組みをやってほしいと願っている。

⇒裸足で歩ける海岸を目指すのは、山形県海岸漂着物対策推進協議会等では話題になっているが、それがフォーラムの事業ではないということを知って欲しい。フォーラムの事業がその活動に良い影響を与えていると実感しているので、このような形で関わっていく。海や飛鳥に直接行ってゴミを拾ってくることはフォーラムの事業でないと認識している。それぞれの担当の組織があるので、それに沿った中で活動するのがフォーラムの仕事だと思っている。その点をご理解頂きたい。

- 10 全国川ごみネットワークへの参加
- 11 「美しい多摩川フォーラム」との連携事業
- 12 各種助成事業・基金への応募や寄付などの獲得、その活用を行う。

#### 次第4 その他

##### 【意見】

地域づくり、地域活性化がどこでも叫ばれている。最上川は四万十川と比較されるが、四万十川に比べて漁協の組合員が徹底的に少ない。川で生業として成り立っていく漁協のような鮎釣り、鮎捕りを研究して、四万十川のように川魚で盛り上げると違った意味での最上川に対する愛着や自然の保全でも活性化してくるのではないかと思っている。何らかの場で討論の柱として研究課題として受け止めていただけないだろうか。

⇒川漁を生業としての地域活性化は、我々の活動と離れたものではないかと思う。川漁と地域の活性化は一緒ではないのではないかと考える。